

ふらのコミュニティレポート

FURANO COMMUNITY REPORT



furano cross-country skiing club ふらのクロスカントリースキークラブ



スキーを楽しむこと 相手を思いやることを基本に

▲通常の練習会のほか、市内外の大会への参加や夏には中高生と一緒に合宿を行う ▲練習会の様子

「が」んばれー！もう少し！」
29年ぶりに富良野で開催された北海道障害者冬季スポーツ大会の距離競技。そこで選手たちに一生懸命声をかける子どもたちがいました。ふらのクロスカントリースキークラブ（泉正人代表）のメンバーです。クラブの大人や高校生は大会役員を担い、子どもたちは選手にあたたかい声援を送りました。

クラブは、スキーを通じた健康的な体づくりと仲間づくりを目的に平成9年に発足し、現在29人（小学生12人）のメンバーが在籍。週3回朝日ヶ丘公園のコースでスキーを楽しむほか、市内外の大会に参加したり、夏にも週2回ポールゲームなどで基礎体力を養っています。

小池駿介さん（9歳）は、「完走したときに達成感がある」とスキーの魅力を話します。子どもたちへの指導について、泉代表は「スキーを楽しむことと、相手を思いやることを基本に指導しています。今回の大会に関わってもらったのもそういう意図がありました」と話します。

クラブの前身は、29年前に発足したふらのクロスカントリースキー少年団。インターハイに選手を輩出したこともある名門少年団でしたが、子どもたちの人数が徐々に減り、15年前に誰も加入できるクラブに、「健康ブームもあって、中高年で体を動かしたい人がたくさんいます。クロカンは、マラソンと同じように自分のペースでできるところが良いところ。病みつきになりますよ」と泉代表。また、「小中高に優秀な指導者がいるので、上をめざせる体制も整っています。スキーのまちとしてスキーを通じた輪を広げていきたいと思っています」と今後の抱負を語ってくれました。

